《キーワード》 不正咬合、不正咬合の分類、セファロ分析、模型分析、抜歯分析

《担当者名》 飯嶋 雅弘、中尾 友也

【概要】

矯正診断では、他の歯科臨床での診断と同様に、治療対象となる不正咬合に関する十分な情報を得る必要がある。症例から得られた資料の分析から不正咬合の問題点を歯系、骨格系、機能系及び軟組織に分けて抽出し、問題点に対する治療目標の設定を経て、最終的な治療計画の立案を行う。歯系と軟組織の問題点は抜歯・非抜歯の診断基準、また、骨格系の特徴は顎整形治療又は外科的矯正治療の適用の必要性と密接に関わってくる。

本科目では、ある不正咬合を有する症例に対する一連の診断過程を実践することによって不正咬合の分析・診断方法を習得するとともに、不正咬合に対する治療の必要性とその意義についての理解を深めることを目標としている。

【学修目標】

1. 矯正歯科治療の必要性を説明できる。
2. 咀嚼、嚥下、発音の機能及びそれに関連する頭頸部の解剖について説明できる。
3. 矯正歯科治療に必要な診断の各過程を説明できる。
4. 矯正歯科治療の診断に必要な分析と問題点の抽出ができる。
5. 診察、検査及び分析結果から治療計画を立案できる。
6. 矯正歯科治療における永久歯抜去の必要性について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	矯正診断に関する講義	1) 問診と診察 2) 軟組織分析 3) 模型分析 4) セファロ分析 5) 機能分析(早期接触による顎偏位) 6) 成長分析 7) 抜歯分析	飯嶋 雅弘 中尾 友也
2	矯正診断の実習		飯嶋 雅弘 中尾 友也

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

事前に提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくことが望ましい。